

日本をキリストへ 協力

11

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

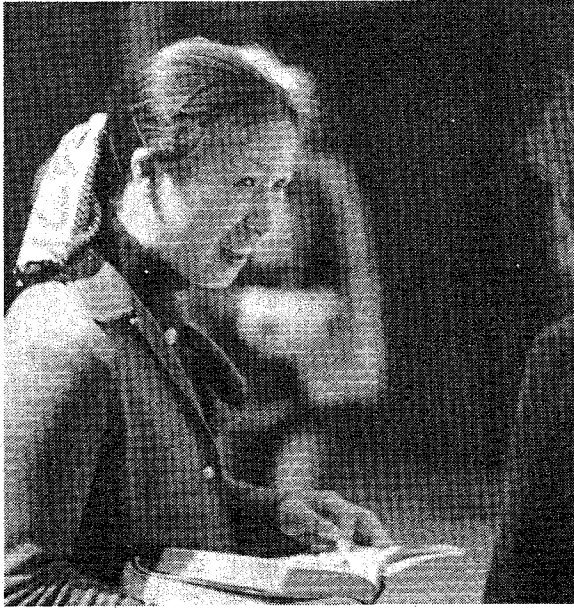
〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1
OSCCビル日本福音クルセード気付
TEL 03-295-4414

今は伝道のチャンス

協議会会長 本田弘慈

「あなたの天幕の場所を広げ、
あなたの住まいの幕を惜しみなく張り伸ばし、
綱を長くし、鉄のくいを強固にせよ。」
(イザヤ 五四二)

イザヤは53章の主の十字架のあがないの後に、私
たちに、幕屋を広くし、張り伸ばして、惜しむな、
と宣教のヴィジョンとその拡大を語っています。
主は十字架において、人類のあがないを成就され、



その恩恵がすべての人に伝えられ、受入れられるこ
とを願っておられます。

神は愛であり、神の愛はすべての人に注がれてい
ます。それを伝えるのがクリスチャンの任務であり、
各種伝道団体の責任でしょう。

今、日本は元号が変わりました。多難な昭和の時
代も終わり、平成の時代にはいりました。人々は、
今後、日本がどのように進展するかに不安を感じて
います。この時こそ、各種伝道団体は一層前進し、
伝道すべきでしょう。

それについて私は三つのことを提案します。

第一に、もっと積極的に。

各団体はもっと積極的に前進すべきではないでし
ょうか。他団体への配慮も時には必要ですが、各自
団体が存在の使命に立って、更に前進を。多く蔭く
ものが多く刈るのです。

第二は、ヴィジョンの拡大を。

一地区、あるいは一地域に一教会ではなく、日本
全国の隅々にまでも浸透することを願って前進すべ
きでしょう。そして、時には全アジア地域に向かっ
ての拡大されたヴィジョンをもって奉仕することも
必要でしょう。

第三は、更に協力的に。

自分を生かすと共に、他団体をも生かすことを考
えて伝道しましょう。今年こそ、日本の全地域に向
かって、一層協力し、前進すべきではないでしょ
うか。

伝道は今です。私たちに許されている時は今だけ
です。この時を生かし、懸命に励もうではありません
か。

一泊研修懇談会に参加して

いのちのことは社伝道グループ

恵みシャレー軽井沢 東京事務所

穂森 宏之

「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。ヨハネ15:16

この度、主の恵みと憐れみにより一泊研修会に参加することを許され心から感謝している者です。現在伝道団体連絡協議会に属している団体が51あるとお伺いし驚いています。逆に日頃、自分の働き場しか目に留めていない事に気付き祈り重荷を負いあう事に欠けていると反省させられました。特に、講師の岩井清先生の二回にわたるご講演には深い感銘を受けました。個人的な事で恐縮ですが、私

もいのちのことは社伝道グループの一端に加えられ今年で15年目を迎える年です。丁度、この様な節目に初心に帰るべく示唆を与えられ奉仕している場で実を結ぶべく力強く福音の証を十分たてていかなければならないと、新たに目の開かれる思いがいたしました。

しかし残念に感じた事は、時期的問題もあ

ったかもしれません。参加者が少ないという事です。各伝道団体のスタッフの方々も、次の機会には参加される事を希望します。必ず大きな主の祝福が待っていると信じます。ところで貴重な紙面をお借りして申し訳ありませんが、お祈りのうちに覚えて頂きたい御挨拶申し上げます。

皆様方に、ご愛顧いただきました軽井沢クリスチャンセンターが、この度、いのちのことは社伝道グループに加入しました。設備も充実し、名前も「恵みシャレー軽井沢」として新しくスタートしました。私たちは、この施設が年間を通して、人々が肉体的、霊的、一新的場所になると、確信しています。神様のご自身の栄光を現わすために、「恵みシャレー軽井沢」を十分用いて下さるようというのが、私たちの切なる祈りです。どうぞよろしくお願い申し上げます。コリント第一15・58

KGK総主事 片岡 伸光

一九八八年十一月二十四、二十五日、伝道協恒例の一泊懇談会が、熱海の臨海ホテルを会場としてもたれた。参加者は二十五名で、遠くは沖繩や関西から駆けつけてくださった方もあった。晩秋とはいえ、陽光の温かい両日、二日目早朝からジョギングにいそしむ



人もみられた。夕食を囲んでの団体紹介を兼ねた自己紹介や、熱海らしい潮湯につきりながらの語り合いによって、一同は次第にうちとけていった。普段、ともすれば孤立しやすい働き人にとって、肩の張らない交わりは、たんなる情報交換以上の値千金の時である。その味をしめた人は、また翌年も参加することになるようだ。



今回のハイライトは、「伝道団体に期待する」と題して、平塚福音教会の岩井清牧師が二回にわたり講演してくださったことである。先生は、これまでにご自身が直接的にあるいは間接的に、関わってこられた各種団体との出会いの体験を、ひとつひとつふりかえりつつ、話題を掘り上げてくださった。学生伝道の団体によって、信仰の基礎である祈ることや聖書を自分で読むことを訓練されたこと、聖書通読運動の団体の海外研修を受けたとき、地域教会の有力なメンバーが集まって来て、

一つの働きに協力するという理想的な関係を学ばされたこと。キリスト教の出版社と協力したこと。出版事業は重要だが、労苦のわりに、あって当然で空気のようなものともみなされやすいこと。クルセードに協力した結果、地域の諸教会間の交流が盛んになる祝福を受けたこと等等。教会にとって大きな助けであった。

それとともに、感じておられるいくつかの問題点も話された。伝道団体やそのプロジェクトとの関係は、たいてい個人的なベースで始められ、それが教会が動かされていくことになる。しかし、この形は先細りになることが多い。担当者が短期間に入れ代わるような場合はなおさらである。また、教派の枠が広がり過ぎて、教会としての秩序を保ちがたくなるケースもある。

教会と伝道団体の関係を密にするためには、きめの細かい情報交換や牧師との交流が必要である。ダイレクトメールのみに頼らず、人の繋がりを重んずることが大切である。ごくふつうの信徒の人が、教会の祈り会でその働きを覚えて祈っていて、それを通じて教会全体もその働きに関わるといった姿が望ましいのではないかと結んでくださった。教会との関係を整理して考えることができ、私個人にとっても祝福であった。

Hi・B・A代表 大竹 一行

一泊してとは言え睡眠も入れて正味二十三

時間のプログラムとしては盛り沢山のプログラムでした。今回のテーマは「多くの実を結ぶ」で礼拝・報告会・講演・分科会・全体会がありました。

開会礼拝ではイザヤ書から荒野が果樹園にと神の霊がくだる時、物質的にも霊的にも祝福されることを学びました。

秋のJEA主催の日本の宣教を考える宣教懇談会に出席した方々からの報告もありました。会合の内容や宣教に取りくんている諸教会の情報は伝道団体として参考になるものでした。

初日、二日目と二回に分けて行われた講演で岩井清先生が豊富な体験から語ってくださいました。牧師としての働きに従事する前からいくつもの伝道団体に関係してこられた経験から伝道団体の落ち入りやすい問題や取りくむ姿勢について教えてくださいました。必要があり起るべくして起った働きとは言葉、教会の実情と声に耳を



傾けなければいけないことや伝道団体が自己目的化のため一方的に文書によって知らせるやり方よりも人格による接触が必要であることを教えられました。教会に理解される必要があり、そのため仕えてゆく姿勢が問われていると思われました。伝道団体もつと地域教会との血管を太くすることが大切であり、交わりをもつと密にしてゆく必要があると思えます。

分科会・全体会は講演を土台としての話し合いとまとめでした。多くの実を結ぶことを願って伝道に従事しているお互いですので活発な話し合いが行われました。

種々の団体の奉仕者との寝食を共にしての交流は貴重なものだと思います。次回は一つでも多くの団体に参加してほしいと思えました。今回の会の準備をしてくださった方々に心から感謝しています。また今年もすばらしい経験をさせてほしいと思っています。

新年情報交換会のご案内

例年、二月には各団体の今年の活動や目標について情報を交換し、祈り合う時をもちます。今年は二月九日(木)午後二時から五時まで、OSCCの8階エレベーター・ホールで情報交換・懇談会を開催いたします。ぜひとも各団体からどなたかをお送りくださいますようお願いいたします。すでに事務局から案内の手紙とアンケートがいつているから



と存じます。よろしくご返送ください。また、このニュースをご覧くださった皆様の中で、伝道団体の働きに興味をお持ちの方、将来このような団体に働きたいとお考えの方、ぜひご参加ください。きっと参考になることでしょう。

各団体から三分以内でご報告いただきますので、ご準備ください。その折に、団体を紹介する印刷物があればご持参ください。皆様に配布する手配をしたいと思います。

さらに、伝道団体連絡協議会にたいして何かご要望やご意見がありましたら、お気軽に提案してくださいれば幸いです。

今年も与えられた貴重な時を伝道のために用いていきましょう。互いに協力し合えるところがあれば、大いにその機会を活用し、スクラムを組んでいければ幸いだと思えます。主の祝福が各団体と働き人の上にありますように。

▼ お茶の水学生キリスト教会館がこの春、旧館の取壊しをすることになりました。

▼ PBAとCTMが合併してTV伝道を始めていくことになりました。

▼ 学生を伝道の対象とする団体が一月三日に会合を予定しています。

伝道団体連絡協議会役員名

顧問 島村亀鶴 森山 諭 岡村又男
 会長 本田弘慈
 副会長 羽鳥 明 登 K・マクビティ
 役員 堀内 頭 鈴木留蔵 兼松 正
 久保英夫 荒牧嘉文 滝元 明
 常任役員 大竹一行 村上宣道 菊池良市 岸田 馨
 多胡元喜 市村和夫 堀井雅夫 渡辺佐次郎
 浅見鶴蔵 岩崎喜太男 P・ホーン
 A・ホーランド
 監査役 鈴木留蔵 兼松 正

● 発行日 一九八九年二月一日
 ● 発行者 本 田 弘 慈
 ● 編集者 堀 井 雅 夫